

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4070001286
法人名	社会福祉法人 みのり会
事業所名	グループホーム 照日ヶ丘
所在地 (電話番号)	福岡県築上郡上毛町大字安曇585-44 (電 話) 0979-84-8080
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年3月15日

【情報提供票より】(平成20年2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 15日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	13人, 非常勤	5人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	新築/改築
建物構造	耐火建築 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円		その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有(円)			無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有／無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	100 円	
	または1日当たり		1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月27日現在)

利用者人数		18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1		5	名	要介護2	5	名
要介護3		6	名	要介護4	1	名
要介護5		1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	83.5 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかの内科・消化器科クリニック 大川病院 筒井歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

築上郡上毛町に緑豊かな自然の中で周防灘を望む小高い丘の上に位置しているグループホーム照日ヶ丘は、一歩中に入ると窓が広く明るく暖かさを感じる施設である。理念「初心生涯」を基本に高齢者の福祉の原点は、在宅にあるという考えに添って利用者と経験豊かな職員が共に寄り添い見守りながらの介護サービスを行なわれている。暖かい落ち着いた雰囲気で行なわれている。又、敷地は広々として開放感があり隣接の地域の方々が常に訪れ、時には小さい子供さん達が遊びに訪れる地域に密着したグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を基に日頃の介護の見直しの重要性を十分理解し自己評価を行ない、それを基に介護計画を立て健康診断の回数を増やしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価の内容を理解し、日頃取り組んでいるサービスの質の向上に向けて真摯に前向きに捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の参加者は家族、民生委員、市行政、地域包括支援センター職員であり且つ法人理事である。できるだけ幅広い立場の人が参加する会議となるように利用者の参加の検討が望まれる。会議内容は事業所の運営状況、利用者の状況の報告、参加者からの質問や意見を基に検討している。会議内容についてはテーマを設定して行う予定になっており今後が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	職員は家族来訪時には意見や要望など出し易い雰囲気作りに努めている。又、出された意見や要望は全職員で検討しサービスに反映させている。苦情相談窓口については重要事項説明書に公的窓口及びホーム内窓口の存在を明記している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	学校や地域の行事には積極的に参加している。中学生の体験学習を受け入れたり施設行事の案内状を出すと共に防災訓練の呼びかけ及び協力を依頼している。日常的交流の促進のため介護教室開催についても計画されている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者福祉の原点は在宅にあるという考えで「初心生涯」を理念とし、利用者の人格を尊重し「家庭的な普通の暮らしが出来るよう、近隣との交流で地域にとけ込んだ施設を念頭に地域の中で、その人らしく暮らしていく為の生活支援の大切さを分かり易い言葉で事業所独自の理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務の中で理念の実践について話し合うと共に、全職員は具体的な振り返りや確認を行い、職員全員が共有し実践に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校や地域の行事に参加したり、中学生の体験学習を受け入れたり、施設行事の案内状を出すと共に防災訓練の呼びかけ及び協力依頼をしている。日常的な交流促進のために介護教室の開催に向けての計画も立案されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることで日常の介護の見直しの重要性を十分理解し、健康診断の回数を増やすなど前回の評価を基に介護の質の向上に努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、市担当職員の参加を得て実施されているが、開催が現在までに3回のみで運営推進会議としての機能が存分に活かされていない。	○	事業所としても自覚されており、新年度はテーマを設定し、定期的な開催を予定している。より良いサービスに向けての努力を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場に出向いた際には事業所の状況を説明し介護保険制度や高齢者福祉に関する事等、必要な時の連携がとれるよう情報交換に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度利用の入居者がある為、機会ある毎に職員へ説明し周知をはかり利用者の支援をしている。又、権利擁護、成年後見制度のパンフレット等を取り寄せ必要に応じての情報提供と支援が整えられている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活状況や健康状態など家族の面会時に説明や写真で伝えている。面会の少ない家族には電話での報告のみである。	○	金銭出納や生活状況については文書にての報告が予定されているので、それと共に施設だよりの発刊が望まれる。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、家族とは連絡を取り合い玄関にユニークな形をした意見箱を設置している。現在まで利用はない。家族訪問時に出された意見は職員全員で検討しサービスに反映させている。意見が出し易いように家族会の設立が予定されている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「馴染みの関係」の重要性を十分理解し原則として各ユニットの職員を固定化している。馴染みの職員による安心した暮らしが出来るように、不必要な異動はしないよう細心の配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、年齢等の制限は設けていない。利用者の介護に支障のない範囲で社会参加や自己実現のための休暇がとれるよう勤務調整がなされている。職員は落ち着いて勤務している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に入権について研修会を行つている。日常の勤務においては人権を尊重する意識を念頭に明るく思いやりの心で親しみを持って接している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修参加で得た知識を伝達研修や報告書の閲覧で全職員への周知を図っている。年間の研修計画や職員個々の目標設定によるトレーニングをしていくことが進められている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との情報交換は行われているが同種の事業所との交流は行われていない。	○	他事業所との交流の機会をもち相互訪問や勉強会を通じサービスの質の向上のために職員同志の交流に努めることが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が納得できるよう入居前の見学時に十分な説明と話し合いをし、家族などと遊びに来ていただくときの送迎をしたり、ホームの雰囲気を感じてもらうことを繰り返しながら入居の気持ちの安定を見極めて利用開始に移行している。希望があれば体験宿泊も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「利用者は人生の先輩である」という考えのもと一緒に過ごす中で一人ひとりの気持ちを受け止め、日頃から利用者の得意分野で力を出せる場面作りや声かけを行い感謝したりお互いに支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは日々関わる中で本人の意向や希望を聴いたり、言動から把握している。言動の少ない利用者には表情やしぐさ、家族からの聞き取りで把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心に、栄養士や看護師、他の職員の意見も聴き、家族が訪問時には意向や希望を聞き取り、利用者本位の介護計画の作成に努めている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には介護計画書は6ヶ月ごとに見直しを行なっている。利用者の状態に変化が生じた場合には、必要な関係者と計画の見直しを行なって、現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人が運営しているデイサービスを訪問したり、行事への参加もしている。また、「入居前の居宅を訪ねたい」「お墓参りがしたい」との要望に応じたり、家族が訪問時に宿泊の希望があれば、食事の提供や寝具の貸与をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅時のかかりつけ医への受診としており、家族が同行できないときには、職員が受診介助し、結果を家族に報告している。しかし、遠方の医療機関であったり、往診の体制がない場合には、家族や本人と話し合いの上既往歴等から対応できる医療機関を紹介している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のケアについては、契約時にホームでできる事、出来ないことの説明をしている。可能な限りホームでケアを行う方針であるが、現状では職員の終末ケアへの知識や経験が十分ではない。	○	今後研修等で知識を身に付け、方針を理解し、終末ケアへ向けての取り組みが可能になるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報等の記録については職員室で管理しており、利用者への声掛けやケアについては尊厳を大切にスタッフ間で十分に気を付けている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間や食事の時間も、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切にして、希望に添っている。遅くまで起きている利用者には、職員と一緒にお茶を飲みながら話を聴いたりしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付け等職員と利用者が一緒に楽しく行なっている。職員は各自弁当を持参しているが、1テーブルに一人ずつ付いて和やかに食事をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、利用者の希望に応じてゆっくりと入浴が出来るように支援している。拒否する利用者でも気分をうかがいながら、また、声掛けを工夫しながら週に2回は必ず入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの趣味や生活歴を把握しており、玄関にお花を活けたり、皆のおやつ作りを積極的にしていただく等、役割や楽しみごとへの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に応じて、ドライブに出かけたり、皆でおむすびを握り、戸外で食事をしたり、夏はそうめん流しや広々とした芝生でふうせんバレーを楽しんだりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はタッチ式の自動ドアであるが、施錠はしていない。利用者の行動が落ち着かないときには、見守ったり、希望に添って一緒に出かける等の支援をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難誘導訓練を年に2回、消防署や警察署の協力のもと職員全員が参加して行なっている。隣接の団地の方にも協力が得られるように日頃より働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事摂取量や水分摂取量の把握は行なっているが、食事の量が減少した場合等は、法人の栄養士と相談して特別食を提供したり、本人が好むものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビング等ホーム内は明るく、広々としており天井も高く快適である。清潔で衛生面に留意されている。リビングや廊下には独りがけの椅子や数名で楽しめるソファが設置され居心地よく配慮されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からのなじみの家具や、身の回りの調度品などが持ち込まれ、個性的で居心地の良い居室となっている。		